平成25年度「酪農フィールド科学演習」が開講されました

1. 本授業開講の趣旨

平成21年に本農場が「教育関係共同利用拠点」に認定され(認定期間：平成22年6月10日～平成27年3月
学部学生を対象とした「酪農フィールド科学演習」も3年目の開講を迎えました。本年も昨年度の改善
で、平成25年度8月22日(火)～8月30日(金)にかけて7泊4日の集中演習が実施されました。

2. 受講生

受講者の所属大学および学部、学科等別の人数は以下のとおりでした（五十音順）。

大学等	所属	受
岩手大学	農学部獣医学科	
愛媛大学	農学部生物資源学科	
岡山大学	農学部総合農業科学科	
高知大学	農学部農学科	
島根大学	生物資源科学部生態環境科学科	
	生物資源科学部農林生産学科	
鳥取大学	農学部獣医学科	
	農学部生物資源環境学科	
広島大学	生物生産学部生物生産学科	
山口大学	農学部生物機能科	
	農学部生物資源環境科	
受講者数（合計）		

3. 講義および実習内容

詳細は演習スケジュールPDFファイルをご覧下さい。

4. 演習の様子

本演習では農場で実際に家畜と身近に接しながら管理作業を行い、酪農に関する実習を通し
がりについて受講生一人一人が考えを深めました。最終日にはパワーポイントを用いた課題
受講生は事前に知らされた現場ケースについて、現場が実際で問題となる状況をふまえた考察
を通じて「食」、「農業」、「生命」、「地球」などを多角的に考える、密度の濃い時間となった。

<実習前ガイダンス>

<歓迎会・交流会

人工授精の様子を見学すると共に生殖器を解剖して観察することで、実際に生産の現場で行われている繁殖管理の技術や受精のメカニズムについて学びました。

受講生は朝と夕方に飼料の調整や給餌をはじめとした様々な飼養管理作業を体験し（写真は育成牛への給餌の様子）。

<牛の育のしくみをさぐる>

乳牛のや肉牛を飼育するための基礎的な知識を習得するために、ウシの消化のメカニズムに関する講義と実習が行われました。

了証書授与式>

日の課題発表会後には受講生に対して、前田
ター長から本演習の修了証書が授与されました